

トピックス

茨城県病害虫研究会が50周年を迎える

茨城県病害虫研究会副会長 **わた なべ けん**

はじめに

茨城県病害虫研究会は1960年（昭和35年）に創立され、本年で50周年を迎えた。本研究会は、茨城県立農林関係試験研究機関並びに病害虫防除所が中心となり、農業改良普及センター、茨城大学、鯉渕学園、日本植物防疫協会研究所、茨城県植物防疫協会等が参画して組織され、茨城の農林業の発展に寄与することを目的として、病害虫の研究向上と防除法の普及を図り、研究発表・情報交換会、現地研究会、会報（ISSN 0386-2739）（図-1）発行を中心に活動を続けている。現在の正会員数は181名で、県の公設試験場が中心となって発表会・会報の作成等の活動を継続している病害虫研究会は、全国でも極めて珍しい。

I 研究会会報

当研究会創立50周年を記念して「茨城県病害虫研究会会報集」（CD）（図-2）が発刊され、会員に配布された。このCDには、研究会会報1号（1961年）～48号（2009年）と20周年、30周年および40周年記念誌がPDFファイルで収録されている。

本研究会の歴史は、20周年・30周年・40周年記念誌に諸先輩の文章に綴られている。本会創設にあたっては、野口徳三博士（初代会長）、松浦義博士、島田昌一氏、大内 実氏、高野十吾氏らがご尽力され、茨城県植物防疫協会などの関係機関の支援によって活動が軌道にのったことが記されている。

研究会創立当時は、戦後の食糧事情が安定しつつあったところで、新規有機合成農薬を用いた病害虫防除が農作物の安定生産に大きく貢献した。初期の会報には、新規合成薬剤を用いた病害虫防除効果に関する研究論文の掲載が多い。その後、消費者サイドから減農薬、低農薬等安全な農作物へのニーズが高まるとともに、薬剤以外の方法による防除技術や病害虫被害解析・発生予察等の研究論文の掲載が増加している。会報の論文を見ると、植物防疫の視点が時代を反映し、合成農薬に偏重した病害

虫防除から、安全性やコストを重視した防除へと変化していることがわかる。

このように、会報には半世紀にわたる農業、園芸、林業、蚕業にかかわる病害虫の発生状況や研究論文が掲載されており、本研究会が茨城県の農林業の発展に貢献してきたものと確信できる。

II 研究発表会

研究発表会は年1回開催され、一般講演並びに特別講演以外に現地の病害虫発生状況や研究の進捗状況等を紹介する「事例紹介」を行っている。これは、現場の普及

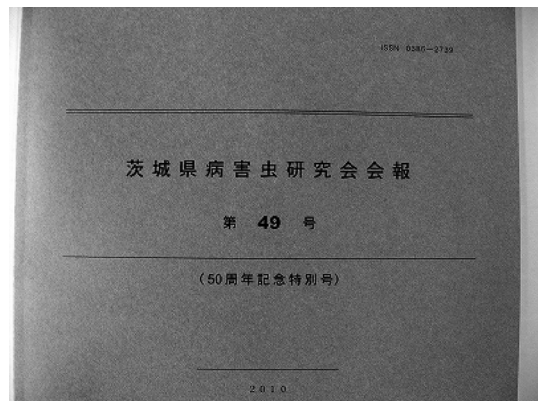


図-1 茨城県病害虫研究会会報



図-2 茨城県病害虫研究会会報集（CD）

Five Decades History of the Ibaraki Plant Protection Society.
By Ken WATANABE

（キーワード：茨城県病害虫研究会、植物防疫事業、病害虫防除）

指導員や若い研究員から積極的に発表してもらいたいとの考えで行っているものである。

また、研究発表終了後には専門技術指導員が座長となり、現場で問題となっている病害虫の情報を共有し、問題解決を図るため「情報交換」を行っているのが、本研究発表会の特徴である。

一方、最近では茨城大学農学部授業の一環として多くの学生の参加を受け入れている。本研究発表会に参加し、将来の職業として地方公務員を目指す学生諸氏が増加することを願っている。

50 周年記念大会 (図-3) は、去る 7 月 2 日 (金) に水戸市のホテルレイクビュー水戸で行われ、特別講演 2 題、一般講演 7 題、事例紹介 7 題の発表があった。参加人数は 150 名 (うち学生 34 名) と盛況であった。

特別講演は、茨城大学農学部の阿久津克己教授から「灰色かび病菌 (*Botrytis cinerea*) とは?—強^{した}かな能力と我が闘争—」と題し、氏のライフワークとも言える灰色かび病菌の生態と防除に関する研究を講演していただいた (図-4)。また、茨城県農業総合センター農業研究所の千葉恒夫所長から「茨城県における主要野菜の土壌病害—発生と対策—」と題して、茨城県の現場で発生して問題となった野菜類の各種土壌病害とその防除対策について講演していただいた。お二人の講演内容は、長年の研究蓄積に基づいたもので極めて興味深く、参加者からは多くの質問が出された。

情報交換では、茨城県農業総合センターの岡部克専門技術指導員の座長で、アザミウマ類と媒介されるウイルス病の県内での発生状況について情報の共有化を図った。

簡易な 50 周年記念式典を兼ねた懇親会は、第 9 代会長を務められた西村典夫博士の挨拶で開会 (図-5) し、限られた時間の中で会員同士が親睦を深めることができ



図-4 講演される茨城大学農学部阿久津教授



図-5 第 9 代会長 西村博士の挨拶



図-3 研究発表会 (50 周年記念大会)



図-6 懇親会の様子

た(図-6)。

Ⅲ 現 地 研 究 会

現地研究会は、主に秋季に開催(年1回)している。内容は、現地での病害虫発生状況や各研究機関が実施している現地試験並びに関係機関の視察・見学等が主であり、大型バス1台程度の参加者のコンパクトな現地研究会で毎年好評である。

Ⅳ 今 後 の 展 望

本研究会の今後の展望については、会報49号巻頭に書かれている池上隆文会長の文章を引用し、締めくくりとしたい。

「食料の安定供給、食の安全・安心、環境保全のため

に病害虫防除技術が果たす役割は非常に大きく、研究会創立50周年を機に、農業を取り巻く環境の変化に対する新しい防除技術の体系化づくりに向け、病害虫に関する情報を共有化することが更に必要と考えています。今後、研究会の一層の発展に貢献していただきますよう会員、関係機関の皆様には特段のご支援をお願い申し上げます。」

問い合わせ先:

〒311-4203 水戸市上国井町3402

茨城県農業総合センター農業研究所病虫研究室内

茨城県病害虫研究会事務局

TEL: 029-239-7213 FAX: 029-239-7306

引 用 文 献

- 1) 池上隆文(2010): 茨城県病害虫研究会会報 49: 1.

好評発売中

農薬取締法令・関連通達集

(社)日本植物防疫協会編 B5判 261ページ
価格: 1,050 円(税込) 送料160 円(メール便)

<掲載内容>

農林水産省・環境省・厚生労働省関連の農薬に関する
政令、省令、告示、関連通知、その他省令を網羅

- ・ 農薬取締法と関連の政・省令を見やすく2列に表示
- ・ 農薬関連の告示を取締法に関連付けてレイアウト
- ・ 関連する通知文およびその他関連法令(抄)も掲載

農業関係者必携の1冊です。

